

## 「行政視察報告書」（視察・調査の経過及び感想）

日 時 平成29／12／19（火）～12／21（木）

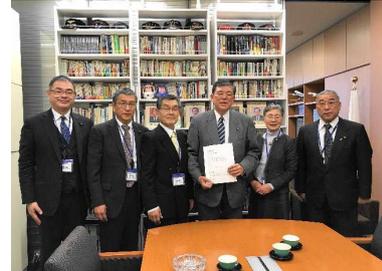
### 1. 視察・調査の経過及び感想について

#### （1）東京都千代田区 12／19（火） 13：00～16：00 「要望活動」について

鳥取空港発ANA294便で羽田空港へ。昼食後、地下鉄等を乗り継いで議員会館へ向かう。鳥取県選出の4国会議員、石破茂氏、赤沢亮正氏、舞立昇治氏、青木一彦氏の事務所を訪問。会期中ということもあり、不在の方もあったが石破茂氏と舞立昇治氏にお会いし要望活動を行った。代議士不在の事務所では議員秘書の方に要望書を手渡して概要を説明した。

要望内容は、「鳥取県中部地震からの復旧復興にかかる支援」についてとして、次の3項目を中心とした。

- 鳥取県中部地震被害にかかる来年度以降の復旧復興対策に要する一般財源の特別交付税措置
- 鳥取県中部地震被害対応のために発行する地方債の実質的な地方負担について、特殊財政需要として後年度における特別交付税参入率のアップ等制度の拡充
- 観光需要を喚起し、被災地での消費を促すための国による観光・コンベンションの誘致・促進活動等新たな観光振興策及び経済対策



あわせて、打吹玉川伝統的建造物群保存地区の地震被害物件の修理完了進行状況や市役所第2庁舎整備などについても説明した。

要望活動の後、浦崎奈々子氏（石破茂氏秘書）の案内で国会議事堂内を視察した。敷地面積103.001平方メートル、建物面積延べ53.464平方メートル、建築期間17年間（大正9年1月～昭和11年11月）建築費2.570万円（現在では600億円）をかけた国会議事堂、スケールと荘厳さに圧倒される。伊藤博文・板垣退助・大隈重信の銅像が三方に立つ中央広間、衆議院議場、委員会室等を説明を受けながら視察した。

#### （2）埼玉県飯能市 12／20（水） 10：30～12：00 「タブレット端末導入」について

宿泊先半蔵門から東京メトロ半蔵門線、東京メトロ有楽町線、西武池袋線を乗り継いで飯能市へ。飯能市は面積193.05平方km、人口約8万人である。池袋駅から特急で40分の距離にあり都心へも1時間あまりで行ける。ベッドタウン的な場所で、西武鉄道が分譲地を売り出している広告が駅で目に入った。駅前バス待ちの女性たち、近くに埼玉女子短期大学がある。自然を活かした農業体験などに力を入れている。ムーミンをモチーフにしたあけぼのこどもの森公園があり、ムーミンバレーパーク「メッツア」



が2018年オープン予定である。飯能駅で迎えに来ていただいた飯能市職員と市の車で市役所へ。

市役所に到着すると大勢でのお出迎えにびっくり。何事かと思ったが「歓迎倉吉市議会様」と書いた紙を見て視察の歓迎だと理解する。後で聞くと市の幹部職員が交替で行っているとのこと、議会を含めかなりの数の視察がある中で感動。

議会棟に行き説明の場となっている議場へ。飯能市議会副議長 中元太氏、同議員 滝沢修氏、新井重治氏、内田けんじ氏、関田なおこ氏、大津力氏らとあいさつを交わす。

調査事項である「タブレット端末導入」について説明を受ける。進行や説明も全て飯能市の議員が行っておられた。説明をしていただいた大津力議員は学習塾代表取締役とのこと、とても分かりやすい説明であった。ペーパーレスでタブレットを操作しながらだったため、概要をメモに基づいて報告とする。

- 1 導入の背景 環境に配慮した活動推進 ペーパーレス
  - 2 議会の検討 タブレット有効活用 ICT活用による議会改革の推進
    - ①全員協議会ペーパーレス化②議会内の情報伝達をメールに③危機管理上の緊急連絡をメールに④政務調査活動(インターネット) など
  - 3 費用 (1)導入費用合計:346万円(2)1台当たり通信費:年額68000円(3)費用負担:公費4/6、政務活動費1/6、自己負担1/6
  - 4 導入効果 (1)費用削減効果:年間約210万円(2)紙使用料削減枚数:年間約10万枚
- 以上のような内容であった。

議員間でも導入にあたっては様々な考えやレベルの違いはあったが、互いに教え合ったりすることで議員同士のコミュニケーションがとれたという話もあった。また、市民への反応について質問したが、民間等ではさらに進んだ状況なので特別な反応はなかった。マスコミ等に取り上げられたり数多くの視察があることで市民へのPRになっているということであった。



### (3) 東京都台東区 12/20(水) 15:00~17:00 「アート・コミュニケーション事業」について

飯能市で昼食後、西武池袋線、JR山手線経由で上野へ。徒歩で東京都美術館へ。東京都美術館は、日本初の公立美術館として大正15年5月に開館、「美術の殿堂」として広く美術の魅力を伝える役割を果たした。昭和50年に新館の開館、平成24年に大規模な改修工事を実施。新生・東京都美術館として再出発した。



館内に入り、副館長 松下裕子氏、アート・コミュニケーション係長兼学芸員稲庭彩和子氏の出迎えを受ける。稲庭氏は、鳥取県美術館整備基本計画アドバイザー委員会委員でもある。松下氏より美術館の概要、稲庭氏よりアートコミュニケーション事業について説明を受ける。

東京都美術館は、敷地面積16,639㎡、延べ床面積は37,749㎡で公募展示室12室、ギャラリー3室、講堂230席284㎡、スタジオ等3室、アートラウンジ381㎡、レストラン2店舗・カフェ1店舗を有する。主な事業は、公益目的の自主事業として特別展・企画展等(視察当日はゴッホ展、リアリズム展が開催され、シ



ルバーデー：65歳以上は無料ということもあり混雑していた。）  
やアートコミュニケーション事業を行っている。収益事業として  
ショップやレストラン管理を行っている。来館者年間280万人。

アート・コミュニケーション事業は、従来の教育普及活動に加え、  
社会課題を視野に入れたソーシャルプロジェクトへの取組を展開している。  
主なものは次のとおりである。



○コミュニケーションプログラム：ファミリー向け、個人向けプログラム。

○アクセス・プログラム：障害のある方の鑑賞支援

○アートコミュニティ形成：東京芸術大学との連携プログラム、学校との連携

○ミュージアムスタート：上野の9つの文化施設（上野の森美術館、国立西洋美術館、東京都美術館、東京国立博物館、恩賜上野動物園、国立国会図書館、国立科学博物館、東京芸術大学、東京文化会館）と連携した子どもを対象としたラーニングデザインプロジェクト。

説明に加えて、アート・コミュニケーション事業に関わるビデオもを見せていただいた。

この事業の中では、一般から募集しているアートコミュニケータ（愛称：とびラー）が活動している。無償でボランティア活動ではあるが、40名の応募に5倍程度の応募がある。基礎講座6回に参加することが条件で、とびラーは学芸員や大学の教員や専門家とともに活動する能動的なプレーヤーで任期は3年である。

#### （４）神奈川県寒川町 12/21(木) 10:30~12:00

##### 「タブレット端末導入」について

宿泊先半蔵門から東京メトロ半蔵門線、JR湘南新宿ライン、JR相模線乗り継いで寒川町へ。寒川町は面積13.42平方km、人口約4万8千人である。首都圏50km、横浜30km圏にあり、東は藤沢市・茅ヶ崎市、西は平塚市・厚木市に接している。寒川駅から市の車で寒川町役場へ。寒川町議会副議長 吉田悟朗氏、同議員 黒沢善行氏、同議会事務局長 新藤聡氏、同次長 三橋義明氏らとあいさつを交わす。

調査事項「タブレット端末導入」について説明を受ける。  
説明の後、実際にタブレットを操作しての研修を行った。

議会改革推進委員会に検討部会（ワーキンググループ）設置

■タブレット端末の検討：資料やコスト削減、会議の効率化

■操作性、起動時間、持ち運び、ネット閲覧などの優位性

■タブレット端末導入方針

・議会活動＋政務活動 ・招集通知、議案、委員会資料等

■タブレット導入プロセス（平成26年1月～27年12月）

①議会改革推進委員会で検討開始②業者によるプレゼン

③執行機関との調整④試行実施（一般質問）⑤補正予算計上

⑥定例会全日程で試行⑦導入決定業者との契約⑧正式運用

に向け、議会・執行部双方での操作研修会実施⑨正式運用

上記が概要であり短期間で進んだように感じるが、実際には導入に向けて様々なハードルがあったと推察。議会改革の一環として議会・行政が真剣な取組の結果であると実感。



## 2. 視察・調査を終えて

「視察・調査の経過及び感想について」に載せたことはもちろん、他にも沢山のことを学ばせて頂きました。お忙しい中われわれのために対応して頂いた関係者の皆様、到着から出発まで「おもてなし」の心で細やかな心配りをして頂いたことに感謝いたします。

震災からの復旧・復興に係る国への要望、議会改革・行政改革にもつながるタブレット端末導入、鳥取県立美術館開館に向けての美術館のあり方という喫緊の課題につながる充実した視察となりました。

視察を通して本市に還元できることを取り入れ、市民の皆さんにお役に立てるよう精進いたします。ありがとうございました。